

表 2. 4.16 緑化工の対策成果一覧表 (4/6)

緑化工条件		位置図	写 真	
緑化目的	地すべり末端非整形緩斜面			
工法	木チップ敷設			
施工年	平成22年			
補修年1				
補修年2				
種子配合	なし			
自然侵入植生	ヨモギ			
	ススキ			
	オノエヤナギ			
緑化工成績				
植被率	100%			
群落高さ	1.5~1.8m、 単木的に3mを越えるヤマハンノキあり			
現時点での評価など				
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生チップを厚さ10cmで施工したため、植生侵入に障害が出るのが懸念されたが、期待以上の植生侵入状況となっている。</li> <li>○ 当初ヤハズソウが優占種であったが、徐々にヨモギが優先するようになり、ススキ、オノエヤナギ、シロヤナギなど先駆種の種が増えてきている。</li> <li>△ 初期緑化にやや時間を要する。</li> <li>△ 斜面長が長い場合には表流水がチップ敷設底面を流過し、地山とチップ層を流亡させる場合があった。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施工後4年が計画して、生チップの土壌化が進行しているものの、一部では土壌の浸食もみられる。チップの土壌化の進行に合わせて侵食防止シートなどによる機能維持の対策も必要か。</li> <li>○ 優占種が徐々に変化がしている</li> </ul>				
			 <p>■ススキが密集して侵入する場所</p>	 <p>■生チップの敷設断面 土壌化がかなり進んでいる</p>



表 2. 4. 17 緑化工の対策成果一覧表 (5/6)

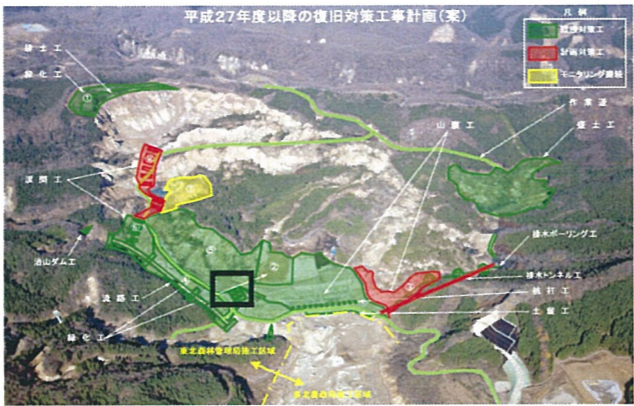

緑化工条件		位置図	写 真	
緑化目的	床固工両岸切土斜面		 <p>■左岸側 植被状況はすばらしい 初期緑化が過密すぎる傾向</p>  <p>■右岸側 パッチ状に植生が無い部分がある。 斜面方位の差か？</p>  <p>■小段部に導入されているヨモギ</p>	
工法	肥料帯付植生マット			
施工年	平成25年度			
補修年1				
補修年2				
種子配合	牧草類			
自然侵入植生	ほとんどなし			
緑化工成績				
植被率	100% , 一部パッチ状に植生を欠く			
群落高さ	30~50cm			
現時点での評価など				
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 植被率はほぼ100%で良好。</li> <li>○ 転石の分布に応じてパッチ状に植生が欠落する部分もあるが、これが弱点(線)となって侵食は発生していない。</li> <li>△ 急速緑化のための牧草類の密度が高すぎて、在来種の侵入を送らせている可能性も考えられる。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 緑化工による土砂侵食防止機能は発揮されている</li> <li>△ 現行植生から在来種への移行は？</li> </ul>				



表 2. 4.18 緑化工の対策成果一覧表 (6/6)

緑化工条件		位置図	写 真	
緑化目的	頭部切土法面		 <p>① 植生機材吹付工</p> <p>② 植生機材吹付工+侵食防止マット</p> <p>■両後方の境界付近</p> <p>■右岸側 パッチ状に植生が無い部分がある。斜面方位の差か？</p>	
工法	植生機材吹付工 植生機材吹付+侵食防止マット			
施工年	平成25年度			
補修年1				
補修年2				
種子配合	①植生機材吹付工			
	牧草類、ヨモギ			
	②植生機材吹付+侵食防止マット			
	ヨモギ、イタドリ、 イタチハギなど			
自然侵入植生	ススキ			
緑化工成績				
植被率	90%(両工法とも)			
群落高さ	①植生機材吹付工			
	②植生機材吹付工+侵食防止マット 1~2m			
現時点での評価など				
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 植被率は90%と高い。</li> <li>○ 侵食や崩壊は発生していない。</li> <li>△ 植生機材吹付工は初期緑化のための生立数が多すぎて在来植物の侵入数が少ない傾向。</li> </ul> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いずれの緑化手法においても、ガリー、商法かなどの発生はみられず、土砂流出防止機能は発揮されている。</li> <li>△ 勾配の差はあるが、無処理の排土面には在来種の侵入が多くみられることから、今後の推移を追跡する必要がある。</li> </ul>		 <p>■① 植生機材吹付工 牧草類とヨモギで覆われる。 ススキの侵入が少ない。</p>	 <p>■② 植生機材吹付工+侵食防止マット ススキの侵入が多く群落高さも高い</p>	